インディアナ日本語学校便り 第８号

令和６年６月８日事務所 317－255－1631 メール ijls@indiana-j-school,net

(HP) http://www.indiana-j-school.net　　校長　森 勝義

谷川俊太郎
～「朝のリレー」～

校長　森　勝義

気が付けばもう６月２週目が終わろうとしています。日本語学校は６月２２日が１学期最後の授業、終了日になります。日本では「海の日」を迎え、長い夏休みになります。オーチャード校でも５月２３日に卒業式があり、長い休みに入りました。

現地校の卒業式では、卒業生一人ひとりがメッセージを伝えていました。親への感謝、先生方への感謝、友人への感謝など伝えていました。

現地校で頑張っている日本の子どもたちがこの長期休みを利用して一時帰国して、小学校や中学校に１学期が終わるまでの数週間、体験入学する子たちが、勤務していた中学校でも毎年いました。休み時間になるとその子の周りに集まり、その国のことや学校のことなど質問攻めにあっていました。その子たちは日本の学校が夏休みに入ると、塾の夏期講習に参加して、受験対策にいそしんだり、スポーツの特訓で頑張る子たちがたくさんいました。

地球の裏側で、けなげに頑張っているそういった子たちに接するたびに、谷川俊太郎の「朝のリレー」という詩を思い浮かべていました。この詩は今年度も中学１年生国語教科書に１ページ目に取り上げられています。地球を運命共同体として、その国に住んでいる子どもたちがともに意識し、人間同士が連帯感をもって生きることの大切さを教えています。今まさにこのインディアナ日本語学校に通っているすべての子どもたちは、自分では気が付いていないかもしれませんが、確実に国際人としての道を歩んでいます。日本にいるお友だちのことを想い、世界にいる同年代の子たちを想い生活しています。この貴重な経験があの子たちの近い将来にとって、かけがえのない財産になっていることは確かです。この詩、読んでみてください。

谷川俊太郎 「朝のリレー」

カムチャツカの若者が　きりんの夢を見ているとき
メキシコの娘は　朝もやの中でバスを待っている
ニューヨークの少女が　ほほえみながら　寝がえりをうつとき
ローマの少年は　柱頭を染める朝陽にウインクする
この地球で
いつもどこかで　朝がはじまっている
ぼくらは朝をリレーするのだ
経度から経度へと
そうしていわば交換で地球を守る
眠る前のひととき　耳をすますと
どこか遠くで目覚まし時計のベルが鳴っている
それは　あなたの送った朝を
誰かがしっかりと受け止めた証拠なのだ

谷川俊太郎　「谷川俊太郎詩集　続」思潮社より

保護者の皆様、日本語学校の教職員とともに日本の宝、地球の宝を見守っていきましょう。

春の俳句　６年１組

立春の花咲くように夢広がる　古川　明伊那
花開き春のあいさつこんにちは　深川　緒莉
穀雨にて木がいっせいに緑なり　岩谷　颯樹
清明は新たな生命（いのち）作り出す　飯田　逸士
春分日たいがいじいじの誕生日　唐澤　真矢
ふきのとう雨が降り出し雪解ける　赤木　七海
立春みどりもふえて鳥さけぶ　加藤　玲那
開花する桜の花が清明だ　羽田　康生
清明の桜の花はきれいだな　ロス　実夏
春分だまた草むしり大変だ　佐藤　翔紀
空の色雪解ける雨水かな　町田　柚輝
春がきてきりもでてきて白い道　ラスピナ陽光

「わたしの春休み」　４年１組　音琴梨花

わたしは、春休みに友だちといっしょに大きな家をかりてそこで一泊二日のおとまりをしました。みんなで行く前に、一緒に野球を見に行きました。そこでは、カブス対ドジャーズの試合があり、四対一でドジャースが勝ちました。

　そのあと大きな家でエッグハントをしました。みんなで自分の家に帰る前に夜ごはんを食べに一緒にモーモファームというところにあるお肉屋さんで夜ご飯を食べて帰りました。とても楽しかったです。

ヒゲ森の言葉の森・探検

泰山北斗（たいざんほくと）

ある分野の第一人者、権威者。「泰山」は中国山東省にある名山。「北斗」は北斗七星。転じてその道の大家として人々に仰ぎ尊ばれる人の意。

行いはおれのもの、批判は他人のもの、おれの知ったことじゃない。

勝海舟

１８２３年～１８９９年　幕末の武士。政治家。

自分の行動は自分で制御できるが、それに対する他人からの批判は制御できない。だったら気にせずに思う存分にやればいい。